

# 伝統文化の源流に触れる

開催日：2019年 **11月9日** (土)

■12:30～開場 ■13:00～開演 ■15:30終了予定 ■会場：国立文楽劇場・小ホール

「Nobody grows old merely by a number of years. We grow old by deserting our ideals.」

Samuel Ullman 「Youth」原詩より抜粋

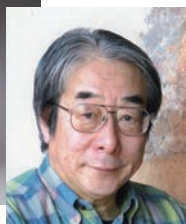
「年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。」

サミュエル・ウルマン「青春」(「Youth」)岡田義夫訳より抜粋

## <第1部> 萩 焼

～400年の時を超える造形美を愛でる～

講師 / <sup>しんじょう さだつぐ</sup>新庄 貞嗣氏



萩焼は、今から約400年前、文禄・慶長の役(1592～1598年)に際して渡来した朝鮮李王朝の陶工が、慶長9年(1604年)毛利輝元公の萩移鎮に従って長門の萩に来住し、城下の松本中之倉に開窯した萩藩の御用焼物所がその起源です。そのうち「萩焼深川(ふかわ)窯」は、その半世紀後に陶工李勺光の子息山村新兵衛光政の高弟蔵崎五郎左衛門、蔵崎勘兵衛、赤川助左衛門、赤川助右衛門らが藩の許可を得て、萩から深川三之瀬(ふかわそうのせ)に移住し、三之瀬焼物所を開窯したのが始まりです。

当該開窯者の一人赤川助右衛門を始祖とされ、陶工李勺光とともに広島から萩に来住した松本ノ介左衛門を先祖に持たれる新庄(赤川より改姓)助右衛門窯の第14代新庄貞嗣氏に、萩焼が持つ独特の「土味」による手取りの良さや「萩の七化け」と言われる特色などをお話いただきます。

## <第2部> 雅 楽

～1000年伝わる音を聴く～

出演 / <sup>おとわかい</sup>音輪会



雅楽は、1200年以上の歴史をもつ伝統芸能。5世紀から9世紀にかけて、朝鮮半島や中国大陸などから渡ってきた諸芸を源流にして、飛鳥～平安時代に日本の王朝貴族らがまとめ直したのが現在に伝わる雅楽の基になるかたちとされています。明治時代には宮内庁式部職楽部が創設されるなど、1000年以上もの間伝承され続けています。平安時代の初期に宮中の儀式や典礼のための音楽として整えられた「管絃」をはじめ「舞楽」を含め楽器の由来など、トークを交えながら日本古典楽器の世界をお楽しみいただきます。



- 会場 / 国立文楽劇場小ホール (大阪市中央区日本橋1-12-10)  
最寄駅：堺筋線・千日前線「日本橋」駅下車 7番出口より徒歩1分
- 参加無料  
事前にハガキもしくはメールに住所・氏名・電話番号をご記入の上、下記までお申し込みください。
- 主催・連絡先 / 一般社団法人老人文化会議  
(〒550-0006大阪市西区江之子島1-7-3)  
TEL:06-6444-2777 E-mail:info@eldernets.or.jp